

(29)

氏名(生年月日)	中 島 静 香
本 籍	ナカ シマ シズ カ
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第422号
学位授与の日付	昭和55年10月24日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	円形脱毛症の免疫組織学的研究
論文審査委員	(主査)教授 肥田野 信 (副査)教授 吉岡 守正, 教授 遠藤 光夫

論 文 内 容 の 要 旨

研究目的

円形脱毛症の原因究明に、近年、免疫学的検討も試みられている。その一つの方法として円形脱毛症患者の病巣部皮膚の生検を行ない、蛍光抗体直接法によつて観察し、また蛍光抗体間接法により患者血清中の抗毛包抗体の検索も施行した。

研究方法

蛍光抗体直接法…円形脱毛症患者35例に皮膚生検を行ない凍結切片を作製し、十分に遊離グロブリンを洗い流してから FITC 標識抗血清 IgG, IgM, C₃ を個々に反応させ、特異蛍光の局在を検討した。

蛍光抗体間接法…患者50例の血清を20倍～160倍に稀釈し、ヒト正常頭皮を基質として用いて反応させたあと、FITC 標識抗血清をインキュベート後、直接法と同様の方法で観察した。使用した標識抗血清はいずれも Hyland 社製で、F/P ratio は2.7～3.3の範囲で用いた。blocking test を行ない特異蛍光であることを確認した。

研究結果

蛍光抗体直接法では病巣部の成長期毛球部の内毛根鞘毛母細胞間に特異蛍光が認められた。その率は35例中 IgG 17例, IgM 6例, C₃ 9例に陽性であつた。沈着部

位からみたパターンでは、内毛根鞘毛母細胞間にレース状に認められたものは IgG 14例, IgM 6例, C₃ 3例であり、毛球部基底膜に認められたのは C₃ のみ4例にすぎなかつた。

間接法により患者50例中、18例(単発型15例中9例、多発型35例中9例)に血中抗体を証明した。抗体価は20倍～160倍で陽性を呈したが20倍に最も陽性率が高かつた。多発型円形脱毛症の蛇行型(Ⅲ型)では3例全例とも陰性であつた。

直接法、間接法の両者に陽性を呈した症例は毛包周囲に細胞浸潤を認め、予後が比較的良好でステロイド外用の有効なものが多かつた。

まとめ

以上蛍光抗体法の所見は、円形脱毛症の病因として免疫学的機序が働いている可能性に一つの支持を与えた。円形脱毛症の予後を予測することはしばしば困難であるが、間接法による血中抗体が予後良好の症例に比較的多く証明されたことは、この抗体の証明が予後を推測する上で有意義な手段になりうることを示唆するものである。

論 文 審 査 の 要 旨

本研究は、蛍光抗体直接法により円形脱毛症病巣部における成長期毛球部の内毛根鞘毛母細胞間に特異蛍光を証明し、又蛍光抗体間接法により、本症患者血清中に抗毛包抗体の存在を証明した。本症の病因として免疫学的機序が関与しうることを明らかにしたもので、学術上価値ある論文である。

主論文公表誌

円形脱毛症の免疫組織学的研究

東京女子医科大学雑誌 第50巻 第7号
529～542頁 (昭和55年7月25日発行)

副論文公表誌

- 1) 老人の梅毒.
Geriat Med 12 (11) 1477～1481 (昭49)
- 2) 強皮症の指示容積脈波所見.
脈波 6 (2) 162～164 (昭51)
- 3) 皮膚筋炎の7例.
西日本皮膚 39 (4) 557～566 (昭52)
- 4) 特発性血管拡張症.
臨皮 31 (9) 701～705 (昭52)
- 5) 小児の疥癬.
小児科臨床 31 (4) 693～697 (昭53)
- 6) あざとその治療.

- 保健の科学 20 (11) 771～774 (昭53)
- 7) Pseudo ranthoma elastique associe a la maladie de Mafan (マルファン症候群を伴つた弾力線維性仮性黄色腫)
Ann Dermatol Venereol (Paris) 106
503～505 (1978)
 - 8) 発疹.
小児内科 11 (11) 1607～1610 (昭54)
 - 9) 円形脱毛症における免疫組織学的研究.
日皮会誌 89 (14) 1073～1076 (昭54)
 - 10) 第2期梅毒症の2例.
V.D. 59 (12・13) 5～10 (昭54)
 - 11) gianotti 病の1例.
皮臨 22 (1) 29～31 (昭55)
 - 12) 小児ストロフルスの統計的研究.
臨皮 34 (8) 775～779 (昭55)